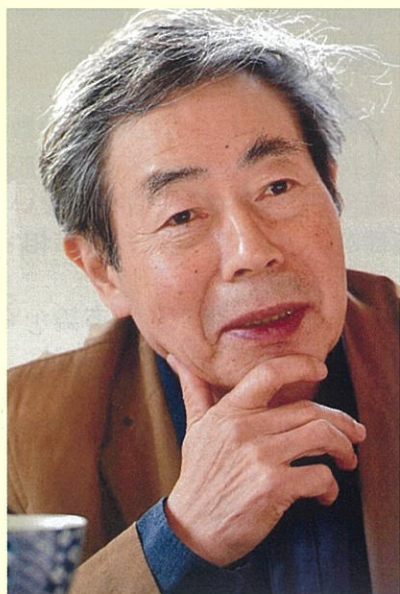


おかざき九条の会結成20周年記念

混迷する世界をどう生き抜くか？

— 憲法 9 条を生かした平和外交を貫く



い け うち さとる
池内 了さん

名古屋大学名誉教授 九条の会世話人
世界平和アピール七人委員会委員

中日新聞文化欄にコラム「時のおもり」を連載中。何かおかしい、これでいいのかと思える世の中の出来事を、くすっと笑える風刺の効いた文章と本質を衝いた指摘で、もやもやをすっきりさせてくれると好評です。
ディール（取引）で戦争を終わらせると豪語するトランプ大統領。日本を取り巻く安全保障環境は一層厳しさを増すと、軍事増強に突き進む日本。憲法 9 条を持つ日本が、本来進むべき道は何か、池内さんが語ります。

2025年

5月18日（日）

開演 1:30（開場 1時）

せきれいホール

（岡崎市朝日町3丁目 25-0511）

前売り800円

当日1000円

障がい者・学生の方は無料



主催 おかざき九条の会

岡崎市竜美西2-1-12 弁護士法人リブレ内

連絡先

090-7959-1192

平井

090-3830-1088

三浦



ホームページ

池内 了さん

1944年兵庫県姫路市生まれ。京都大学理学部卒、理学博士。専門は宇宙論・宇宙物理学・科学技術社会論。世界平和アピール七人委員会委員、九条の会世話人。名古屋大学名誉教授。京大、北大、名大などを歴任。現在は、科学者の立場から、科学・技術に関わる社会的問題について執筆・講演活動を行っている。著書は『科学者と戦争』『科学者と軍事研究』『科学・技術と現代社会』『科学者はなぜ軍事研究に手を染めてはならないか』（2019年度毎日出版文化賞受賞）、『彷徨える現代を省察する』など。近刊に『これからの社会を考えるための科学講義』（2025年2月）がある。



「時のおもり」池内了

「中日新聞」2024年12月14日

■やはり野に置け石破草 はぐらかしが「熟議」か

戦争に負けて疲弊していた国民を励ますかのように、青年たちが男女同権や自由な恋愛観など明るい未来を謳歌する一。石坂洋次郎の小説『青い山脈』（1947年発表）が大ベストセラーになり、49年以来5回も映画化された。最初の今井正監督作品で同名の主題歌を任された藤山一郎と奈良光枝の明るい歌声は日本中に広がった。その歌詞に「雪崩は消える花も咲く青い山脈雪割さくら」がある。

雪崩という言葉に象徴されるのは厳しい軍国時代だろう。雪割桜とは作詞家の西城八十の新語だが、国の天然記念物である盛岡市の石割桜が念頭にあったのではないか。岩の裂け目に落ち込んだ桜の種が発芽して根を広げ開花したのが石割桜で、その姿が硬い岩石を打ち壊したかのように見え、困難にめげずに生きようよ、という呼びかけになっている。

それと比べると大げさだが、10月の衆院選で待望していた自公の過半数割れが実現した。安部、菅、岸田と続いた自民1強時代が曲がりなりにも終わり、ようやく政治に新しい風が吹き込み始めたのではないかと、この感想を持った。それまで主流派になり切れなかった石破茂なる人物が、自民党総裁選で安部主流派に対して勝ったことに、ひょっとすると国政が刷新されるのではないかとひそかに期待したからだ。

その理由の一つは、石破茂が役職を提供されながらも保守本流に対する批判的な言動を弄していたこと。同性婚の導入にも前向きで、選択的夫婦別姓に賛成し、健康保険証の廃止に対してもマイナ保険証との併用を述べていた。少なくとも、以前の一党独裁的な政治の進め方に対して示した苦言は、外野席からのヤジのごとくではあったが、それなりに正論であった。災害対応を専門に行う「防災省」の設置提案は、寺田寅彦以来の懸案と言える。

それらの実績を背景に、首相になっても少数与党であることから、旧来の古くさい保守体質から脱却し、野党側の要求を大胆に取り入れて、旧来にない刷新した政治を行う可能性があり、「歴史に残る宰相となるかも」とさえ、ちょっぴり期待した。

とはいえ、アジア版 NATO 構想や核共有論から見るように、彼は本質的には軍事優先主義者であり、ミリタリープラモデルの収集家という「軍事オタク」から、本物の軍拡主義者になる危険性がある、警戒が必要であるとも考えていた。

ただ、野党と妥協をしつつ政治を進めねばならない立場から、憲法改悪に簡単には手をつけることはできず、長らく続いた安部的な政治がようやく終わって、石割桜ほどではなくても「石破草」程度の斬新さを見せてくれるのではないかと、思ったのである。

しかし、首相に指名されて以来の体たらくにはまったく裏切られた。彼の「熟議」とは、答弁の前置きで長々と自説を述べては、結論をはぐらかす「石破論法」のことなのである。挙げ句、9月に述べていた従来の保険証とマイナ保険証との併用についても、首相就任後は一切言わなくなった。このことを予算委員会で問いただされると、「当選をしたのだから（掲げた政策を）この通りにやるということにはなりません」と居直ったのである。

政治家の口約束は鴻毛（こうもう）よりも軽いと言ってしまうまでもが、首相に選任されるに当たって掲げた政策すら無責任な放談に過ぎなかったのか。これでは、反主流派時代に正論じみたことを口走っていたときの方がまだましである。やはり「野に置け」としか言いようがない。

当日は、池内さんの著書販売を予定しています

参加費 予約・前売り 800円
当日 1000円
障がい者、学生の方は無料
事前に予約してください

（チケット予約）

平井 090-7959-1192

三浦 090-3830-1088

メール humu06@gmail.com →

せきれいホールでもチケット販売中



せきれいホール

岡崎市朝日町3-36-5 0564-25-0511

- ・せきれいホールで工事が始まると駐車場は使えなくなります
- ・車は市役所東駐車場をお願いします

1時30分 開会挨拶
池内さん講演（90分）質疑応答（30分）
（4時すぎ 終了予定）

講演会を中止する場合はHPでお知らせします→

